

令和3年度

コミュニティ生活圏形成事業報告書 概要版

1. はじめに

秋田県では、人口減少や少子高齢化が急速に進行している中で、集落における日常生活に必要なサービス機能を維持・確保していくため、複数の集落による新たな生活圏である「コミュニティ生活圏」の形成を図る取組を令和元年度から本格的に実施している。

昨年度までに実施した11市町に続いて令和3年度は新たに3市町で、市町ごとにモデル地区を選定し、地区別の人口診断と今後の定住増加に向けての取組検討を中心に、次のようなスケジュールで事業を展開した。

- ①コミュニティ生活圏単位で現状分析・将来人口予測の実施
- ②モデル地区における現地調査・ヒアリングの実施
- ③将来人口予測結果を示しながら、具体的な目標策定に向けた地区住民とのワークショップを2回開催
- ④市町ごと及び全県での報告会の開催

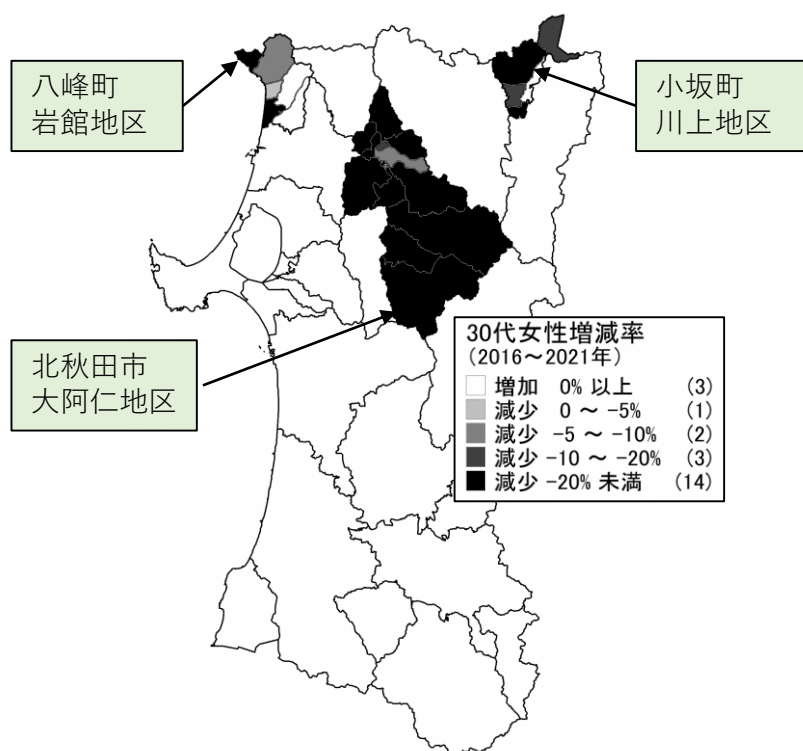


図 地区人口分析成果例「30代女性増減率2016～2021年」

北秋田市 大阿仁地区



戸島内大野集落の棚田



大阿仁スノーフェスタ

小坂町 川上地区



川上プール



川上七夕

八峰町 岩館地区



小入川鉄橋



岩館海浜プールの清掃

2. モデル地区の概要

今年度は北秋田市大阿仁地区、小坂町川上地区、八峰町岩館地区の3つのモデル地区で事業を実施した。各モデル地区の規模等は以下のとおりである。

表 モデル地区の基礎データ（2021年12月末時点）

項目 市町村 地区	人口（人）	世帯数 （戸）	高齢化率 （％）	町内会・自治会数
北秋田市 大阿仁地区	793	406	58.9	8
小坂町 川上地区	417	185	57.3	4
八峰町 岩館地区	680	309	52.6	3

3. モデル地区における実施内容

各モデル地区では以下の取組を行った。

表 実施内容の概略

人口分析・推計 ^注	実施市町及び、市町内全ての地区において人口動態、人口予測等の分析と人口安定化シナリオを作成した。
現地調査・ヒアリング	モデル地区の現状を把握する目的で、市町の担当職員とモデル地区の住民の代表にヒアリングを行った。その後、住民の代表の案内でモデル地区を視察した。
ワークショップ（1回目）	前半 直近5年間の人口動態を確認しながら人口増減要因分析を行った。後半 地区の人口推計シミュレーションにより、定住者数の目標を検討する人口安定化シナリオを作成した。
ワークショップ（2回目）	地元天気図の作成（テーマ 30代女性が定住するとしたら） 前半 地元関係図を基に地区の強み弱みを検討した。 後半 定住増加や地区の弱みを補う策、将来展望を検討した。
市町報告会	本事業の概要と各モデル地区での取組の成果を基に、手法や手応えを実施市町全体に発信・共有する目的で開催した。
全県報告会	市町報告会同様に本事業の概要、今年度の取組の成果等を県民、県内市町村担当職員、関係機関に向けて発信・共有する目的で開催した。

注：基にした人口データは北秋田市大阿仁地区と八峰町岩館地区については住民基本台帳2016・2021年4月30日現在を小坂町川上地区については住民基本台帳2018・2021年4月30日現在と国勢調査2015・2020年10月1日現在である。特に小坂町川上地区については地区別の住民基本台帳2016年4月30日現在を取得出来なかったため、ワークショップ開催時には小坂町全体の変化率を代替して分析・推計したデータを参照した。その後、国勢調査2020年10月1日現在のデータが公表されたため、改めて川上地区の分析・推計を行った。

4. 今後の期待される展開

これからも住み慣れた地域で暮らしていくために

○地域座談会で課題を話し合ってみよう

例えば、地域の活動や祭りが人手不足で出来なくなってきた、交通手段がなくて買い物や通院が大変、除雪が一人では手に負えない等々

○課題解決のために

- ①どんなことを
- ②いつからいつまでに
- ③誰があるいはどんな組織が中心となって
- ④どういう仕組みで取組むのかを考えてみよう

行動計画（グランドデザイン）の策定

○住みよい地域のために自らが出来ることを考えよう

○自治会単独での取組みが困難ならば、近隣自治会と新たなまとまりを構想してみよう

コミュニティ生活圏の構想と実現

○小さな取組を積み重ねてより良い地域づくりをしていこう

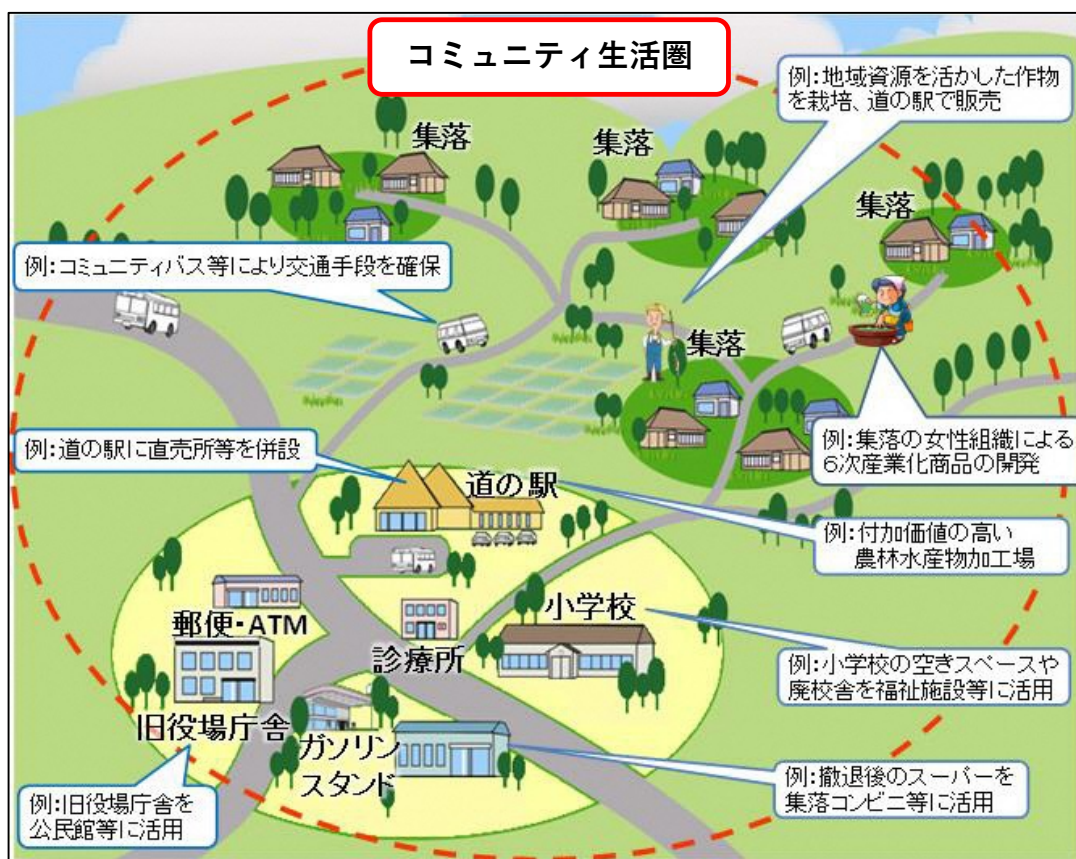


図 コミュニティ生活圏のイメージ

内閣府ホームページ「小さな拠点情報サイト」より一部改変し作成

https://www.cao.go.jp/regional_management/about/objective/index.html#obj02

次頁からモデル地区における取組のうち、ワークショップ（１回目）の人口増減分析と人口安定化シナリオ作成、ワークショップ（２回目）の地元天気図の後半部分のごく一部を抜粋し要約を記載する。

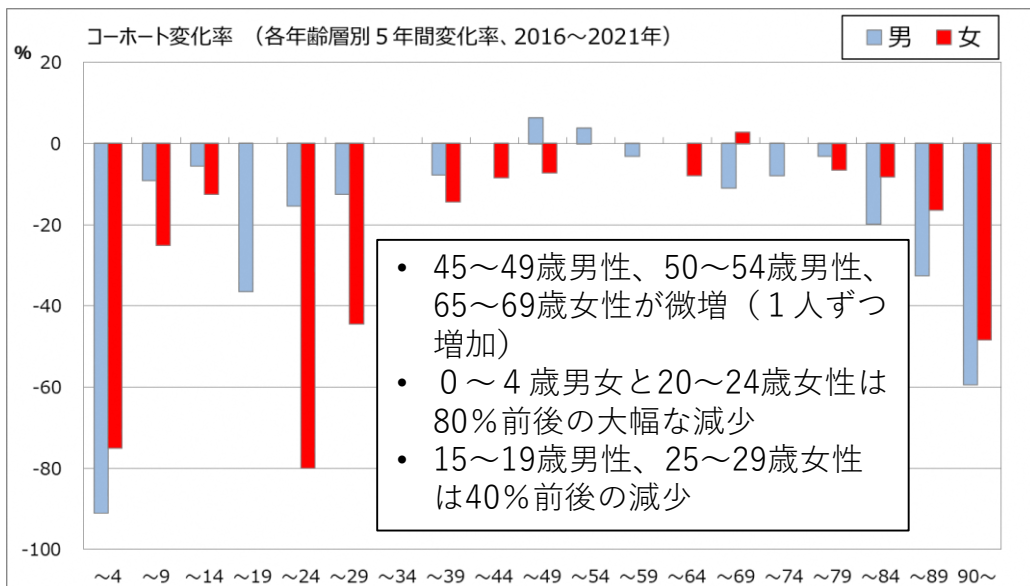
5. モデル地区における取組内容

(1) 北秋田市大阿仁地区

①ワークショップ（1回目）

■人口増減要因分析

日時 2021年10月30日（土）
18:30-20:30
場所 比立内児童館
参加者 地域住民（20名）



<減少要因>

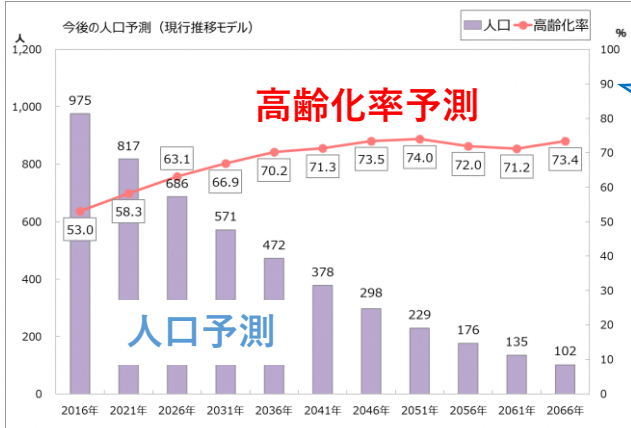
～4歳 産む年代がない
20代 魅力的な職場がない(女性)
30代 子どもの進学のため

<増加要因>

20代 地域おこし協力隊
40代 実家を守るためUターン
50代 親の介護

■人口安定化シナリオ作成

人口予測 直近5年間の減り方が続いた場合



20年後には
人口は817人→378人（53.7%減少）
高齡化率は58.3%→71.3%（13.5%上昇）

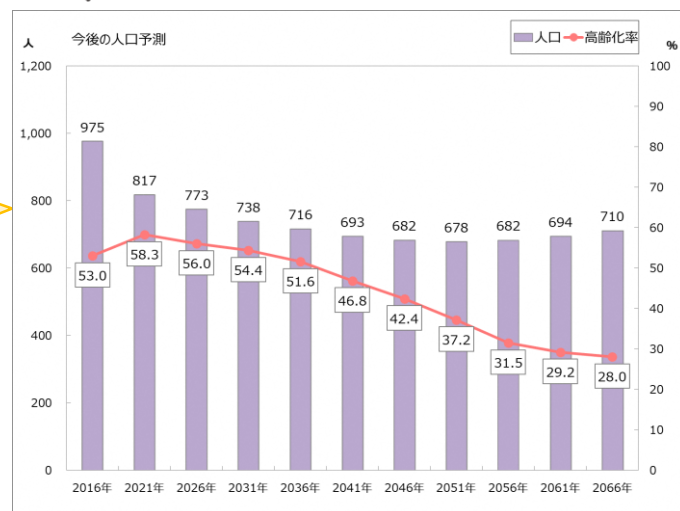
そこで、B班の検討結果

20代夫婦 2組
30代夫婦 2組
60代夫婦 2組

を毎年呼び込め
ばどうなる？

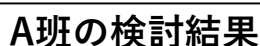
人口は700人前後で安定
（20年後は現在より15.2%減少）
高齡化率は低下し20%台へ

注：20代後半単身女性0.5人/年増加という条件を付加した場合の結果



②ワークショップ（2回目）

日時	2021年11月27日（土） 18：30－20：30
場所	阿仁農村環境改善センター
参加者	地域住民（14名）



- ・大阿仁小学校の校舎を大阿仁出張所と公民館機能を兼ね備えた「new!出張所」として地域の拠点となるように整備
- ・「スムスム」と連携することで「new!出張所」は地区の定住相談窓口としても機能
- ・マタギ希望者を「阿仁猟友会」がサポートし、働く場として「食肉加工所」を整備
〈他の班の意見紹介〉「阿仁比立内がっこステーション」を地域内外の交流拠点、女性の集う場として整備したい



- ・大阿仁小学校の廃校は決定しているので、間髪を入れずに利活用出来るように2022年度中に方向性を定めることが望まれる
- ・大阿仁小学校の利活用（あるいはグランドデザイン）の検討会を通じてコミュニティ生活圏のイメージを増幅・共有出来るように市や支援組織がコーディネートする

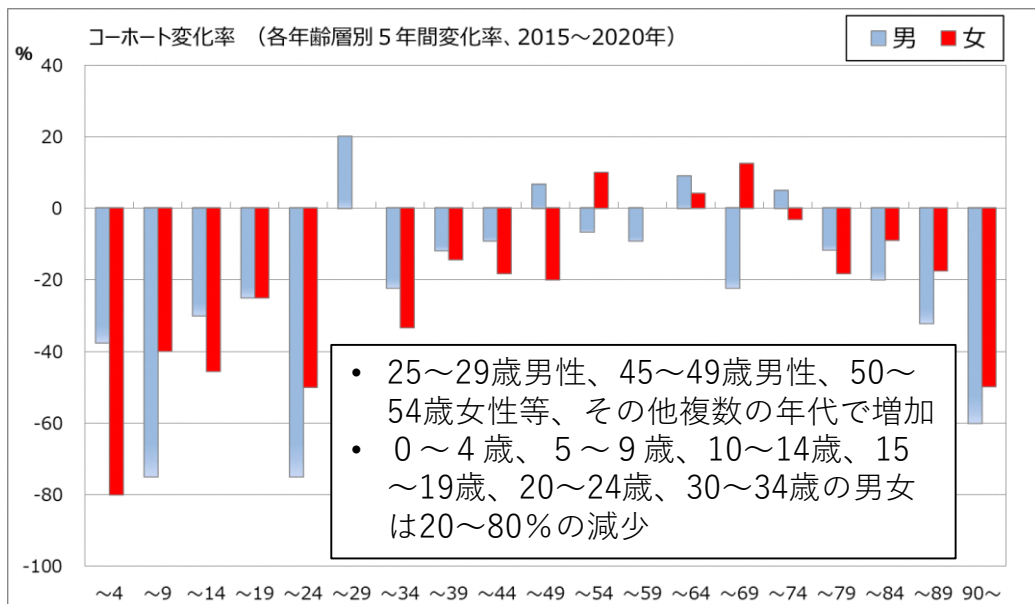
5. モデル地区における取組内容

(2) 小坂町川上地区

①ワークショップ（1回目）

■人口増減要因分析

日時 2021年11月6日（土）
13：30～15：30
場所 川上公民館
参加者 地域住民（21名）



<減少要因>

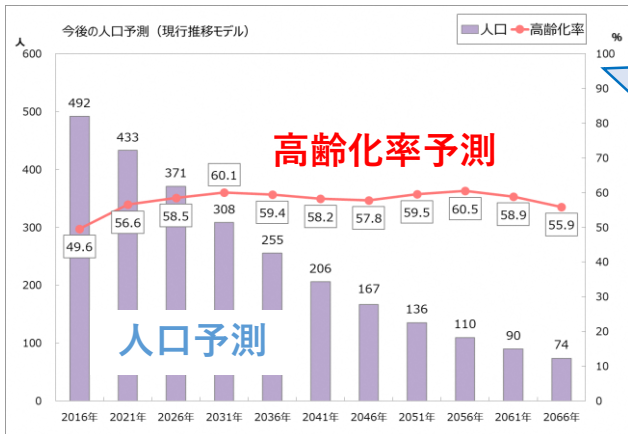
20代 子どもを連れて街部へ
30代 便利な街部へ引っ越し
40代 子どもの高校進学で大館へ

<増加要因>

30代 結婚して戻って来た
30代 離婚して戻って来た(女性)
60代 親の介護のため

■人口安定化シナリオ作成

人口予測 直近5年間の減り方が続いた場合



20年後には

人口は433人→206人（52.4%減少）
高齢化率は56.6%→58.2%（1.6%上昇）

注：小坂町全体の変化率を用いて推計しているため人口減少率と高齢化率の上げ幅が抑制されている

そこで、B班の検討結果

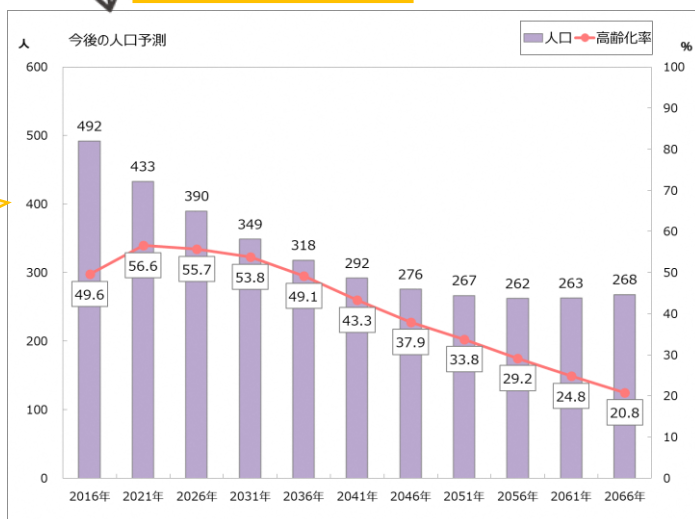
20代夫婦 1組

30代夫婦 0.25組

60代夫婦 0.25組

を毎年呼び込め
ばどうなる？

人口は270人前後で安定
（20年後は現在より32.6%減少）
高齢化率は低下傾向で推移



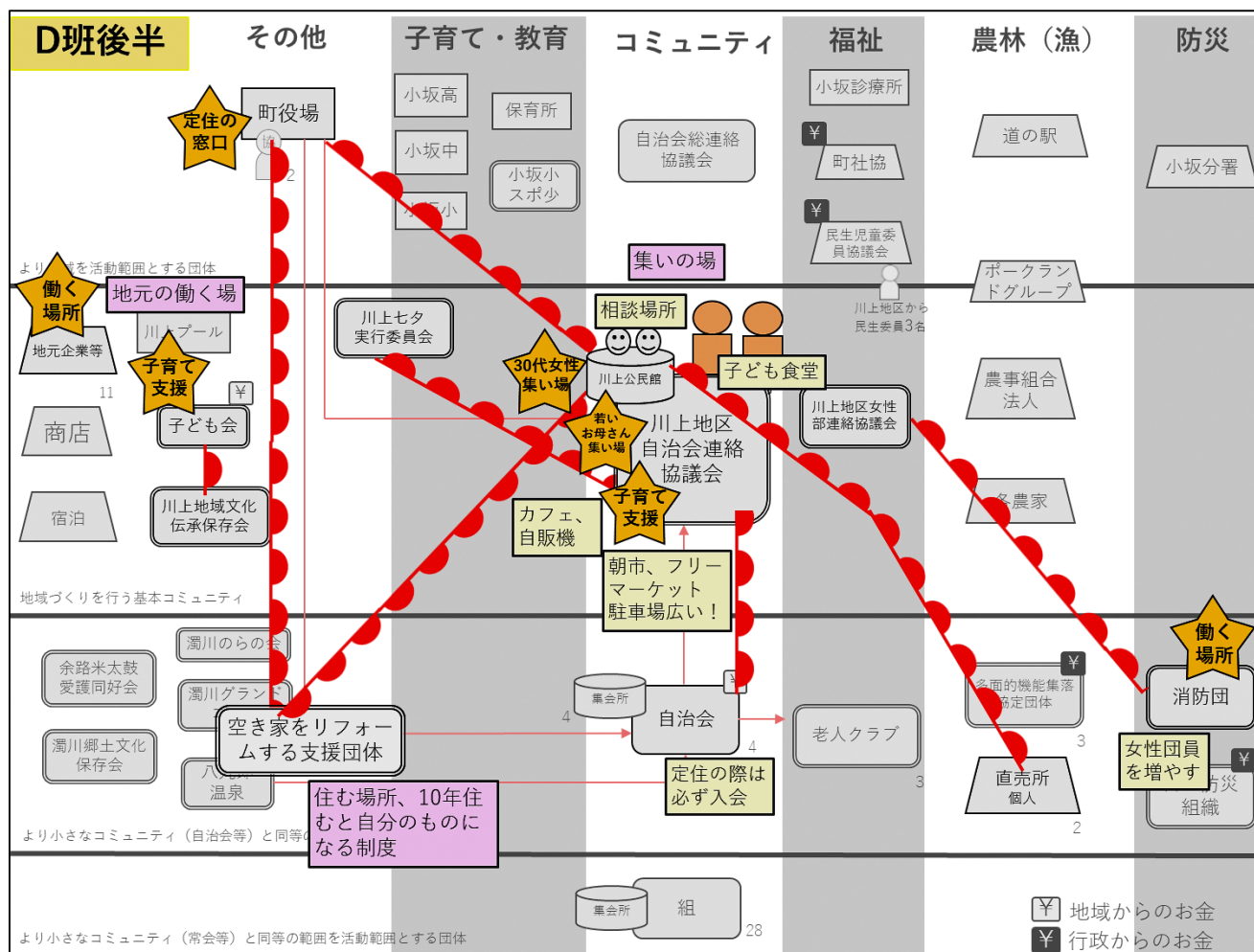
5. モデル地区における取組内容

(2) 小坂町川上地区

②ワークショップ（2回目）

■地元天気図作成

日時 2021年12月5日（日）
13:30-15:30
場所 川上公民館
参加者 地域住民（18名）



D班の検討結果

- ・ 公民館を活動拠点として、子どもや子育て世代が魅力的に感じる地域にしたい
 - ・ 具体的には女性や子どもが参画しやすいものとして朝市やフリーマーケットの開催、カフェや子ども食堂の取組、相談出来るサロンのような場所の設置等
 - ・ 空き家リフォームと移住支援も町と地区が協力して実施
- 〈他の班の意見紹介〉D班同様に公民館を拠点にするという考えや空き家活用についての意見が多く、その他には集落支援員を川上地区に直接配置する案等が挙がった



③成果と今後に向けて

- ・ 川上地区は社会教育の実践によりヨソ者や異なる世代への配慮や思いやりの意識が高いので、事例を学ぶ機会を増やし公民館を拠点とした活動を実践に移す段階
- ・ 地区に精通したベテラン住民と子育て世代女性等の2名程度を集落支援員として公民館に配置し、地元天気図で挙げたアイデアの実現を住民と協力して実現して欲しい

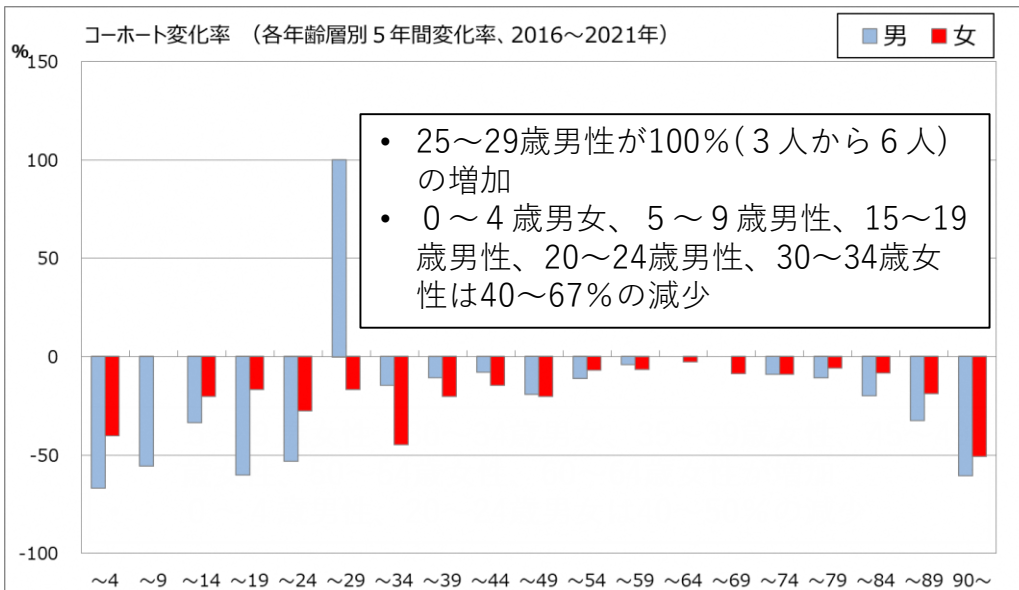
5. モデル地区における取組内容

(3) 八峰町岩館地区

①ワークショップ（1回目）

■人口増減要因分析

日時 2021年10月20日（水）
19:00-21:00
場所 岩館生活改善センター
参加者 地域住民（14名）



<減少要因>

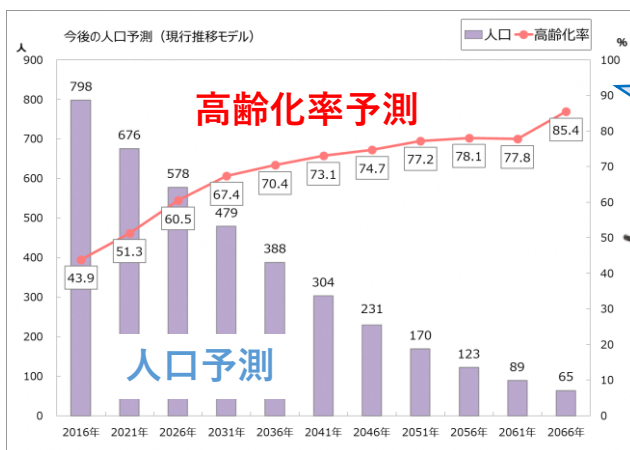
20代 親との同居が嫌で能代へ
30代 通学・通勤に便利な所へ
30代 結婚（女性）

<増加要因>

20代 親の面倒を見に戻って来た
20代 漁師になるため
40代 空き家を改修し移住

■人口安定化シナリオ作成

人口予測 直近5年間の減り方が続いた場合



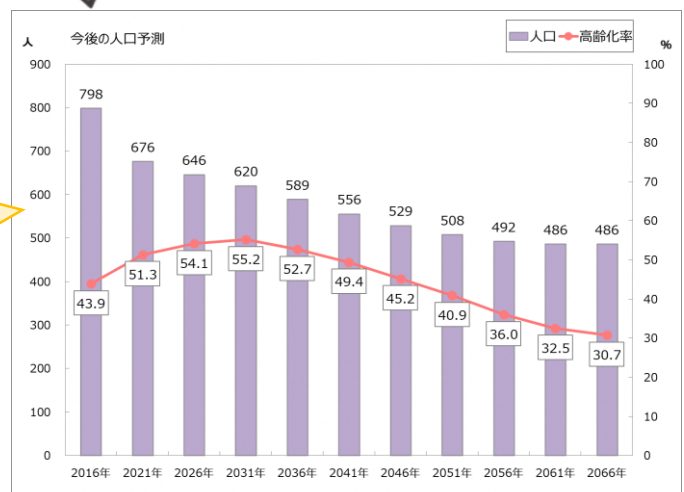
20年後には
人口は676人→304人（55.0%減少）
高齡化率は51.3%→73.1%（21.8%上昇）

そこで、B班の検討結果

20代夫婦 2組
30代夫婦 1組
60代夫婦 2組

を毎年呼び込め
ばどうなる？

人口は480人前後で安定
（20年後は現在より17.8%減少）
高齡化率は10年後をピークに徐々に低下



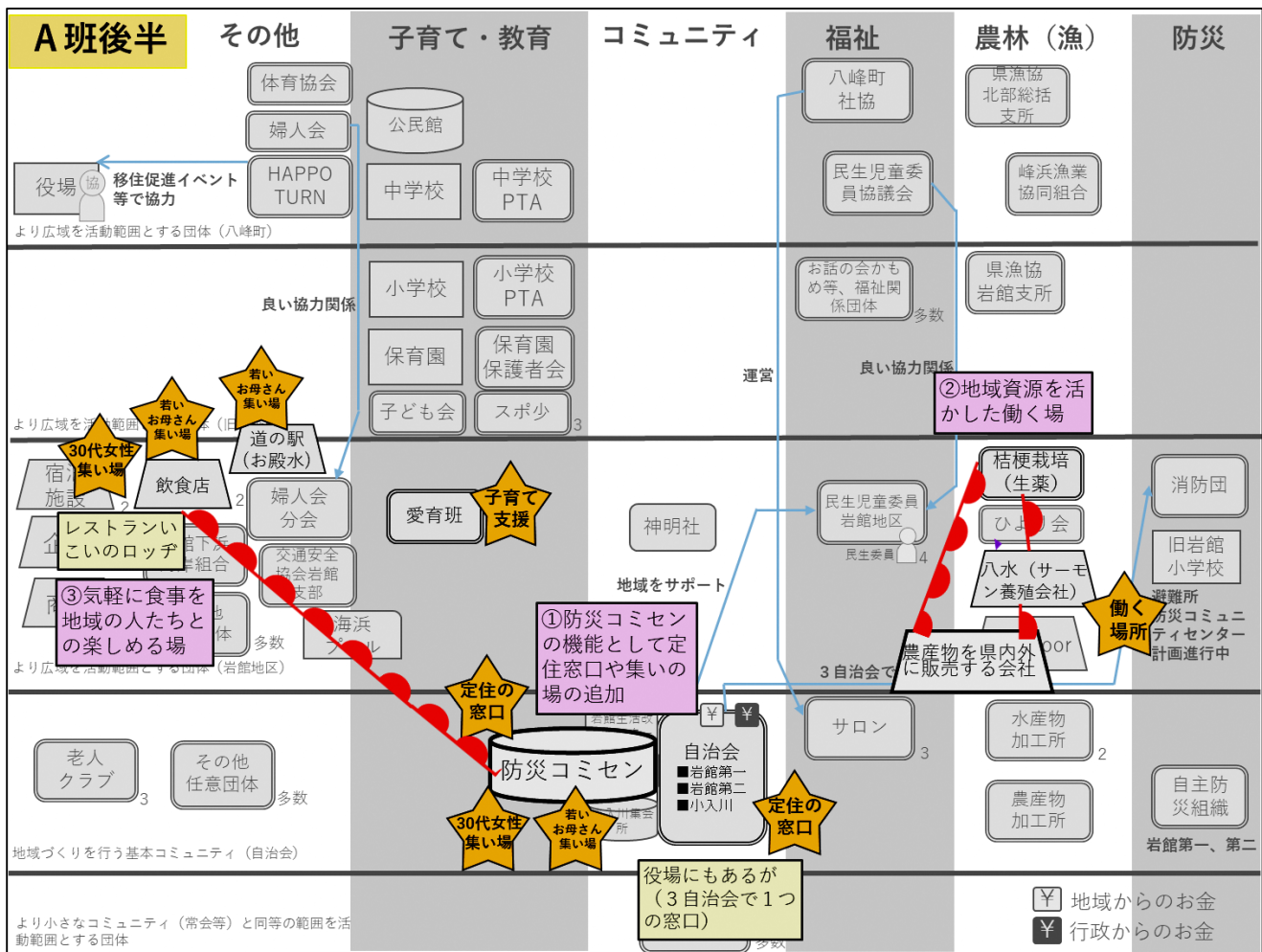
5. モデル地区における取組内容

(3) 八峰町岩館地区

②ワークショップ（2回目）

■地元天気図作成

日時 2021年12月1日（水）
19:00-21:00
場所 岩館生活改善センター
参加者 地域住民（11名）



A班の検討結果

- 「防災コミセン」を地域の拠点施設として女性の集う場、定住の窓口機能を付加
 - 「八水」のサーモンや「生薬栽培」を活用した特産品等の売れるものづくりを進め県内外に販売する会社を興す（働く場づくり）
- 〈他の班の意見紹介〉子どもの遊び場として小学校の廃校舎を利用し学童保育の機能も担える場に
空き家をスポーツジムとして活用し、健康増進、出会いの場、サロンとして利用



③成果と今後に向けて

- 「防災コミセン」は世代を問わず普段から住民が多目的かつ自由に使える施設として柔軟な活用を検討し住民の方々にその考えを浸透させる
- そのための検討会を開催することは岩館地区の課題の一つである世代間交流の希薄化を補うものとしても有効で、町と協力して実施して欲しい

6. まとめと今後に向けた政策提言

(1) 成果

今年度は、コロナウイルス対策に伴う行事延期やオンライン化等に苦労しながらも、昨年度に引き続き次のような成果を上げることが出来た。

- ①各自治体における地区別人口の現状、予測、安定化シナリオの解明
- ②地区住民参加によるワークショップを通じての今後の取組方向の明確化
- ③市町および全県報告会等を通じての今後の取組モデルの提示

(2) 今後求められる進化（政策提言）

①法人設立が重要な地域発展の条件

全国の中山間地域において、積極的に定住や就業を実現しようとしている地域は、次々と分野横断型の法人（＝地域経営会社）を住民主体で設立している。

例えば、島根県邑南町出羽地区では、12集落が連携して自治組織を立ち上げた。この広域連携の動きは、中山間地域等直接支払い11協定の統合にも及んだ。その上で、機動的に営農や空き家活用を展開する事業主体として、住民有志の出資により地域経営会社として合同会社が設立され、個人個人の努力だけでは実現出来ない起業支援や空き家活用まで効果を上げている。

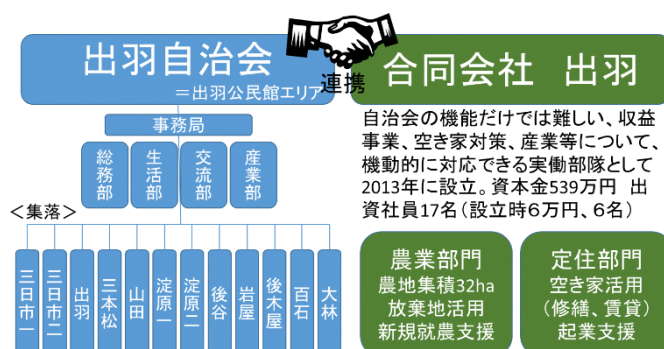


図 島根県邑南町出羽地区の地域運営体制

②未来形の地域づくりの始動へ～循環型社会を展望して

現在定住を進めようとしている子連れ世帯の子どもたちは、確実に22世紀、2101年以降へと生きていく世代に当たる。今後の循環型社会への転換を展望した持続可能な地域社会づくりが、定住実現の上でも極めて重要な時代となっている。秋田県は、日本国内においても、再生可能エネルギーの潜在的な分布が豊かな県として最近注目されている。こうした地域の将来的な強みを顕在化させるコミュニティ生活圏構築を長期的に進めて行きたい。



＜東かがわ市五名地区の薪ステーション＞

コミュニティ生活圏形成事業報告書 概要版
発行年月：令和4年3月
発行：秋田県あきた未来創造部 地域づくり推進課
〒010-8570 秋田県秋田市山王4丁目1-1
TEL：018-860-1215
委託機関：一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所
〒699-3671 島根県益田市津田町1401
TEL：0856-55-1011